

平成27年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
1	肱南・肱北きらめき市	大洲スタンプ協同組合	『お客様にきらめきを！商店街にきらめきを！』をコンセプトに、プレミアム商品券の発行に合わせたチラシの発行や、肱南本町の「まける市」、新町の「どか市」とのコラボイベントを開催し、市内での消費を喚起する。 また、お客様に対する接客マナーとサービスの向上を目指し、加盟店へのアンケート調査と個別指導を実施するとともに、イベント時にお子様連れのお客様が安心して買い物ができるよう、遊具の整備を行なう。	1,875,000	1,875,000	肱南地区きらめき市では、8月3日花火大会当日の本町夜市にて歩行者天国とコラボイベントを開催した。 花火の打上げが始まるまでの時間を効率的に使い、ガラポン抽選会やじゃんけん大会を行った事で、お客様の集客につながった。かき氷や綿菓子の出店では、高校生がボランティア活動をしてくれ、地元商店街の再発見と交流につながった。 肱北地区きらめき市においては、新町どか市をコラボイベントとして開催した。高校生のボランティアで産直市を開催し、それらのコーナーは早い時間に完売した。 新町会場には幼児遊具を駐車場に設置し、安心して遊べる場所を提供した。 ドリーム大ちゃんにおいては、スタンプ売り上げが昨年より1割増加した。これは、きらめき商品券促進として、きらめき賞を設定しお客様へのアピール内容を載せたチラシを発行し宣伝をした効果が出た事と、イメージアップ大作戦で、加盟店ごとにスタンプの出し方などを店頭掲示板を使い活用したり、ミニのぼりを立てて加盟店である事の表示の効果である。	この6年間大洲市がんばるひと応援事業を実施させていただいた。その活動を通して今後の取組方針については、衰退して行く一方の商店街ではあるが、町の活性化のためにも商店街は必要であるとの意見で一致した。 商店街の存続は、大洲スタンプ協同組合では、まずは新規加盟店の拡大が第一である。また、加盟店の後継者サポート・育成などを目的とした、商工会議所などの勉強会にも積極的に参加を促し、組合独自の講習会なども企画していく。 スタンプ事業に関しては、発足当時からスタンプをリニューアルし、健全な財政を保ちつつ活発な運営をしていける事業組合活動に真摯に取り組んでいく。
2	Nagakou Garden Café	長浜高等学校水族館運営協議会	年々増加する長浜高校水族館来館者との交流促進と、お客様の満足度向上を目的に、中庭でオープンカフェや演奏などのパフォーマンスが行なえる環境を整備し、長浜高校水族館と大洲市の更なるイメージアップと知名度の向上につなげる。	2,000,000	2,000,000	来館者満足度は、中庭の整備や生徒の接遇技術向上などにより、昨年度(89.2)から今年度(90.8)へ1.6ポイント上昇させることができた。 昨年5月のintel ISEF(世界最大規模の高校生向け科学研究フェア)で、チーム・ニモが動物部門4等という輝かしい成果を出した。研究テーマが、「カクレクマノミがなぜイソギンチャクに刺されないのか」というなじみ易いものだったのも功を奏し、爆発的にメディアに取り上げられた。今年度、長高水族館の主要メディアでの紹介数は、把握できているだけでも軽く50回は超えており、把握できていないものも含めるとその倍以上の数に上ると予想する。さらに、Yahoo!の「長高水族館」検索結果は、約51,400件で、松野町の「虹の森公園 おさかな館」の約56,600件に迫る数である。長高水族館の活躍は、大洲市のイメージアップ、そして知名度の向上に大いに貢献できた。 ○一般公開日:5,325人 ○保育園・小学校・出張水族館等の臨時公開:2,214人、その他:800人 ○合計8,339人。	長高水族館は、事業終了後も地域の観光拠点として、発展し続けたいと考えている。H28年度には、今年度整備予定の中庭を活用したカフェと、ステージパフォーマンスの充実を考えている。そこで、今後も資金面で大洲市の援助を期待しており、来年度も申請をさせていただきたい。
3	支え合う元気な地域づくり事業	榑生地域自治会	農産物や魚介類等の地域資源を活用した産業振興を目的として実施してきた石窯ピザの研究事業及びアワビの養殖事業を引き続き行なう。 ピザ作り体験利用者が、ピザ作りを衛生的かつ快適に体験して頂くために必要となる空調設備の整備や、アワビの陸上養殖設備の増設、地の利を生かした海面養殖についても実証を行なう。	2,000,000	2,000,000	「地域資源活用」 空調施設を整備できたことにより、体験受入れ時において体験者に快適な環境でピザ作りを体験いただくことが出来るようになったことに加えて、これまで懸案であった夏季における衛生上の問題も解消することが出来た。また、ピザ生地製造機の購入により、市のイベントや遠足など、多人数を受け入れる場合にも円滑な対応が可能となった。あわせて、ピザをはじめとした6次産業化メニューの開発研究により、新メニューの誕生に加えて、今後の活動における可能性の幅を広げることが出来た。 「産業の振興」 新たに2槽の水槽を増設したことにより様々な時期での出荷について可能性が高まるとともに、安定供給の観点からも一定の向上が図れたものと考え。	行政からの補助金に依存することなく、引き続き参画者全員が主体的に取り組んでいく。
4	魅力ある地域づくり推進事業	大洲農業高等学校	地元大洲の特産であるエビネの研究を行ない、高齢化により作り手不足が深刻なエビネの栽培技術を継承するとともに、栽培で最も深刻な問題であるウイルス病対策の研究など品質の向上や新品種の育成に取り組む。 また、エビネの自生地に戻す環境活動も併せて実施する。	288,000	288,000	大洲エビネ会と協力してエビネ展の開催や各種イベントに参加し、大洲エビネの普及活動を行うことで、大洲ブランドの知名度が向上した。 エビネの専門書「日本のえびね第三号」に掲載されたことで、全国のエビネ愛好家に情報が発信され、県内外からの問い合わせ・視察等が多数あった。 本事業に熱心に取り組んだ生徒が今春卒業し、大洲エビネ会に4名が入会した。高齢化が進むエビネ愛好家の技術を伝承する後継者の育成に繋がった。 ウイルス検定を実施し、大洲エビネの品質を向上させることができた。 エビネを自生地に戻す活動を行い、地域の環境改善と啓もう活動に取り組むことができた。	県外のエビネ愛好家との交流活動を実施し、大洲エビネの普及活動を推進する。 倍数体作出技術を用いて、本物のエビネ作りに取り組むための研究を実施する。 エビネ自生地の再生活動を継続する。 今後もホームページやSNSサービスを利用した大洲エビネの普及・広報活動を実施する。 高齢化する愛好家たちの技術継承のための後継者を育成する。 一般の方がエビネ栽培に取り組みやすくて簡易栽培キットを開発する。

平成27年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
5	魅力ある地域づくり推進事業	大洲農業高等学校	昔から地域の生活改善グループを中心に地域の特産物や農産物を使った加工品づくりが行われてきたが、会員の高齢化や後継者不足によりその活動が衰退し、食文化の継承が困難となっているため、生活改善グループとの交流活動(異年齢集団との交流活動)を通してグループがこれまで取り組んできた加工品開発の技術を継承するとともに、そのノウハウを活かした加工品開発を行なう。	263,000	263,000	大洲地域の伝統食の継承について生活研究協議会と2回の実技講習会を実施できた。また、3回の意見交換会を実施できたことにより、高校生が伝統料理に興味を持ち若い力で継承していかなければならない必要性を感じることができた。 平成28年3月から行われているえひめいよしの南予博の中で、教えていただいた大洲、南予地域の伝統料理をランチメニューとして披露することができた。	高校生の伝統食復活プロジェクトとして、生活研究協議会の方々ととの交流活動を継続していきたい。その中で、高校生の新たな発想で地域を代表するような新たな加工品の開発につなげていきたい。来年度は長浜大和地区のグループとの交流を計画している。住民と協力することにより地区で整備されている加工場の有効利用にもつなげていきたい。地域の食文化の継承を農業高校生が担ってほしい。
6	小学生「うかい」体験事業	大洲市観光協会大洲支部	小学生を対象に「昼うかい」を実施し、児童達に大洲の「うかい」を直接体験してもらい、その魅力や課題を率直に提言してもらうことで、新時代にふさわしい「うかい」事業創造への足がかりとするとともに、今後の観光客誘致対策の一助とする。 また、鶴匠自らが鶴を連れて学校に出向き実施している「うかい出張授業」の対象を公民館等にも拡充し、市民に改めて「うかい」を知っていただく機会を作る。	763,000	409,000	市内の小学5、6年生を中心に『大洲のうかい』を体験して頂いた。 教育現場に直接出向き事業内容を説明。各学校の反応も良く、7校の申請があった。 鶴小屋での鶴匠の説明は、うかいだけでは体験できない貴重な経験であったと思う。また、屋形船では、案内人による肱川周辺の観光説明、船頭による肱川の船頭体験など、体験学習としては十分な内容であった。このことは終了後に提出して頂いた感想文にも表れている。 今年度で3年目を迎え、市内の小学校に『大洲の体験授業』として浸透してきたと思う。児童だけではなく保護者の反応も良く、継続して実施していくべき事業と判断している。 市内の小学生が大洲の観光のメインである『うかい』『肱川』を知ること、自分たちの故郷である大洲の良さを改めて認識して頂いたものと実感しており、この体験が、これからの大洲市の観光発展に繋がっていくと思う。	今後も、行政と連携をとりながら取組体制を充実させ、子ども達が将来、『大洲のうかい』を市外へ自慢できるように取組んでいきたい。『大洲のうかい』をまず地域に伝承していくことが大洲の文化として保存していく一歩となると思う。
7	戒川地区榎谷の棚田保全事業	榎谷棚田保存会	昨年度設立した「地域づくり協議会」を中心として、棚田の保全及び地域資源を活用した地域づくりについて具体的な計画を策定し、その実現に向けた協議を進める。 また、見学者や農作業協力者の増加に伴う駐車スペースの不足や農機具保管場所の不足を解消するため、駐車場及び農機具保管場所の整備を行う。	1,614,000	1,614,000	棚田啓発事業によって、域外の関心が着実に広がっている中、地域づくり協議会の議論を通じて、地域資源再評価、旧校舎の利活用、地元産品の商品化などの重要性が浮き彫りになってきた。榎谷棚田などの景観、壺神山の自然、歴史的背景に富んだ史跡など戒川地区の固有の資源への地元の意識・愛着が改めて高まってきている。 旧校舎に住民や一般市民を対象とした交流の場を作り、地場産品を食材としたメニューを提供できないかと、女性陣による試作研究活動が始まっている。地域づくりの中核となる旧戒川小学校の利活用についての住民アンケートも始まった。	棚田オーナー制度、地場産品を活かした商品作り、旧校舎の有効活用、史跡再評価など、地域づくり協議会で示された方向性を具体的に実践に移していく。現在活動の中心メンバーが高齢化しており、新しい、若い人たちの参加を増やす必要がある。情報発信の方法を改善して、インターネットなどの若い人の方法を取り入れていく。
8	肱川あらし予報事業	肱川あらし予報会	世界に類のない自然現象である「肱川あらし」に関する情報を、インターネットで継続して発信し認知度向上を図る。 また、長浜地域の協力者と共に肱川あらしの予報を行い、専用ホームページで予報情報を発信するほか、ポスターやカレンダーの作成や動画をYoutube等に登録するなど、肱川あらしの魅力を市内外に情報発信するとともにモニターツアーを実施し、市外観光客の誘客を図る。	1,822,000	1,645,000	肱川あらし予報サイトに7,906件のアクセス数があり、Youtubeなどの動画なども含めて、全国に向けて情報が発信され、知名度の向上につながった。 今回の肱川あらし予報会の取り組みは、新聞やテレビで取り上げられ、冬の風物詩として地域の愛着や誇りが醸成された。 天空の城「竹田城跡」の視察で、テレビ番組や有名ブログ等で取り上げられることで、一気にブレイクすることがあるので、地道な努力が大切であることを研修できた。	情報発信ツールとして、絵葉書の作成やフォトコンテスト等のイベントの開催などを継続して仕掛けていく必要がある。 肱川あらしは、毎日現れる現象ではないことや早朝の短時間の現象であることから、観光資源として活用するためには、長浜地域だけでなく、大洲市内全域・近隣地域の観光資源と組み合わせたツアー商品化を目指す必要がある。 類似観光資源の先進地と情報交換したり、連携したりすることで、知名度の向上に努める。
9	銀河鉄道999でまちおこし事業	新谷一万石まちおこしの会	大洲市新谷に所縁のある漫画家 松本零士氏 協力のもと、「銀河鉄道999」をテーマとして、イラスト審査会の開催や街中へのモニュメント等の設置、LEDを使用したイルミネーション、銀河鉄道999ステッカーの製作、夏まつりでの山車運行などを実施し、まちおこしの気運醸成と地域の活性化を図る。	2,000,000	2,000,000	松本先生から「こころの古里新谷」という言葉をいただき、松本先生と新谷(大洲市)との繋がりがや松本先生が新谷を愛されていることが、イベントに参加したお客様はもちろん、取材に来られた多くのマスコミを通じて全国に発信できた。 また、当イベントを実施するにあたり、商工会、老人会、青年団、交通安全協会、消防団等の地元各種団体そして、小学校、中学校、高校が一つになってオール新谷で運営できたことに住民の誰もが喜びを感じている。	初期目標である「新谷」の発信は、ある程度成果を得たと感じているが、次の目標としてはイベントの継続実施による知名度の更なる確立、そして単なるイベント開催による打上げ花火で終わらないよう、観光客を楽しませるためのハード整備、その対応ができる組織作りが必要である。 また、それらを維持していくための(補助終了後の)財源の確立が重要である。

平成27年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
10	ブランド米創造、地域活性化事業	ふるさと再生グループ「みらい」	高齢者や農業困難者の手助けを行なうとともに、耕作放棄地解消のため地域のブランド米の生産・販売を行なうことで、地域の再生及び活性化を図る。 また、花木や落葉広葉樹を植栽して、地域の公園化(美しいふる里作り)に取組み、活気ある地域づくりと郷土愛の育成を図る。	2,000,000	2,000,000	今年度で、3カ年計画の最終年度となり、機械の使い方等、実習し、技術の習得に努め一通りの作業ができるようになった。 ブランド米も乾燥機能力的にもう1台必要な状態まで生産できるようになった。 ブランド米を購入いただいた料理店には好評で次年度の販売に繋がった。 味の良いコメ作りにもつとめたブランド米の自信を深めた。	肥料や農薬の使用量、田植えの調整により収穫時期が重ならないようにするなどの改善を行ない、生産量の増加を図る。 地域の小学生たちに、田植えや稲刈りをしてもらい、喜多山米のおいしさや栽培に興味を持ってもらう取組みを行なう。 ブランド米の販売と量の確保。有害鳥獣対策の取組にも努める。
11	白滝観光ゾーン魅力向上推進事業	白滝商工観光連盟	近年、観光客が増加傾向にある白滝公園を中心に、観光ルートへの夢わらべ像の設置や、観光マップのリニューアルを行い公園を中心とした観光ゾーンの魅力向上を図る。 また、観光客からの要望が多数寄せられているトイレについて、既存施設(しらたきの里)のトイレを増設しお客様の利便性の向上を図る。	1,569,000	1,569,000	観光マップに白滝の名所を撮影したカラー写真を多数使用しアピール効果を高めたことにより、多くの方に白滝の魅力を知っていただくことができた。(白滝紅葉フェスティバル期間中に約4千枚配布) 夢わらべを観光ルート沿いの民家(協力者)の敷地に設置することで、住民の観光事業に対する当事者意識が芽生えたと共に、設置総数が160体となり日本一の数となったことは、夢わらべが観光列車「伊予灘ものがたり」や松山駅へ設置されたことも相まって更なる認知度の向上につながった。 観光客からの強い要望があったトイレについても、2基の洋式トイレを増設したことで、待ち時間の解消と利便性の向上につながり、観光地としてのイメージアップが図られた。 これらの取組みにより、住民が当事者意識をもって観光地化に取組むことができ、観光地としてのイメージアップを図ったことで、今後の継続的な誘客につなげることができた。	来夏には複数の旅行会社へ事前にマップを郵送して積極的な集客に努めていく。 来年度には夢わらべが関西方面へ進出する予定。白滝公園の宣伝を依頼して快諾を得ており、新たな観光資源として更なるPRにつなげる。 整備したトイレを少しでも長く使用できるように維持管理に努める。 地域住民が当事者意識を持って観光地化に参画し、地域活性化につながるよう継続して取り組みを実施する。
12	火縄銃鉄砲隊人材育成及び演武PR事業	大洲藩鉄砲隊	大洲城天守閣において毎月実施している公開演武の魅力向上と、イベント等への出演活動の充実を図ることを目的に、隊員数の増員に必要な火縄銃や甲冑等の整備を図るとともに、戦国時代を彷彿とさせるような備品を購入し、お客様が楽しめる雰囲気づくりを行なう。 さらに、演武の前後に紙芝居を用いて、大洲藩と井上関右衛門(鉄砲鍛冶師)の歴史等を紹介し歴史を語り継ぐ取り組みを行なう。	2,000,000	2,000,000	今回の事業実施により3名の隊員を育成することができ、人員不足がある程度解消されたため、年間を通して毎月第3土曜日に演武を実施する体制を構築することができた。また、PRのため作成したポスターは市内一円にとどまらず、市外でも多数掲示してもらうなど大きな反響をいただいており、大洲城のPRに大きな役割を果たすことができた。 想定していたとおり、今年度の大洲城の集客は、大洲城鉄砲隊が起爆剤となり、前年を大幅に上回る集客となったが、一方で臥龍山荘の集客も前年より大幅増となった。これは大洲城を目的に訪れた観光客が、大洲城のついでに臥龍山荘の共通券を購入したことによる増加と考えられるが、これにより大洲の滞在時間が増え、他の市内の観光施設の周遊に繋がったと思われ、地域の活性化に一定の効果があつた考える。 ○集客数(4月～1月) 大洲城 30,463人(前年:22,063人) ○臥龍山荘 25,943人(前年:20,964人)	今回の事業の実施により、活動をしていくための基本的な装備を整備することができたので、今後は多くのイベントで呼んでもらえるよう訓練を重ね、演武の質を高めることで、自主財源を確保していきたい。また、細心の注意で安全管理に取り組むとともに法令を遵守し、毎月の演武を継続して実施していくことで、「大洲城には大洲藩鉄砲隊がいる。」と地域に深く認識してもらい、無くてはならない団体となることを目指す。
13	大和キャンドルナイト	大和イルミネーション愛好会	地区住民の連帯感と地区外住民との交流を目的に、現在、地区内の数軒で実施しているイルミネーションを地区の取り組みとして拡大し、点灯式を兼ねたイベントや廃校に伴うお別れキャンドルナイト(仮称)など、イルミネーションとキャンドルを使ったイベントを開催する。	972,000	972,000	地域住民にとって初めてのイベントであつたため不安な点もあつたが、結果的に参加者同士の「地域のために」という結束力により、当初予定していた以上の来場者や反響をいただいた。 準備していたものが足りなくなりましたが、次年度に向け客観的かつ冷静に問題に向き合い、問題を解決していきながら開催する方向で取組もうという意識が住民に芽生え地域の活力につながった。	無理のかからない協力関係を維持するためには、しっかりと具体的な目標や予算を立て準備段階から十分な意見交換を交えながら取り組む。

平成27年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
14	長浜町魚市場鮮魚直売事業	長浜町漁業協同組合	<p>地域を代表する基幹産業である水産業の担い手(地元漁業者)が、地元の長浜港で水揚げされた新鮮な水産物の販売を行い、お客様へ調理方法や食べ方を直接伝えることで、水産物の魅力を提案するなど、地元住民への魚食文化の継承並びに市外の観光客に対する水産物の認知度向上につなげ、長浜地域の活性化を図る。</p> <p>また、消費者に受け入れやすいよう工夫した加工品の調理、販売を行なうための設備を整備する。</p>	1,332,000	1,332,000	<p>水産物の地元消費が低迷していたが、月1回、地元住民のほか近隣の市町からのお客も増え始め、長浜の水産物の認知度が向上し消費拡大と交流人口の増加につながった。</p>	<p>長浜漁師あらせ市を基本に、当市場に水揚げされる水産物をブランド化して付加価値の向上を図っていく。</p> <p>第1段階として「嵐さわら」の売出しを実施する。</p>
15	ひじかわプロジェクト	ひじかわteto	<p>大洲市の工芸品として生産されていた梁瀬焼や五郎焼など、大洲らしいモノづくりや仕事を普及し定着させることで、アイデアあふれる“感性と創造”のある風土を築いていくことを目的に、大洲の土を使った焼き物作りを取り組み、大洲の歴史や食文化とパッケージ化し大洲の魅力を多方面に発信するとともに、将来的にはモノをつくる楽しさや使う喜びを感じられるような体験事業の展開を図る。</p>	537,000	42,000	<p>大洲のやきものの歴史を調査した結果、大洲には数箇所をやきものをしてきたとの記述があり、また、いくつかのやきものが今にも残っているが、どれも個性を生み出すことが出来ず衰退していくことが繰り返されていたことが明らかとなった。</p> <p>それらは大洲の赤土(陶土)を原料としているため、今回、別のアプローチとして大洲らしさ、南予らしさを原料からも伝わるように「青石(磁器)」に焦点をしばり原料づくりを進めた。</p> <p>試験の結果、「青石」の焼成温度は1000℃付近がよく、磁器としては低火度のため焼きしまりは弱く素焼きのような風合いとなり、成分は鉄、マグネシウム、カルシウムが多く、酸化焼成後の色は成分の鉄から茶色とすることが分かった。</p> <p>また、ろくろ成型には不向きであったため、鑄込み成型の調整を行なった。</p> <p>ある程度、製品化できる原料にまで調整できたので、今後は上記の効果を出せるようなアイテムの具現化と情報の発信を考え、地域の活性化と結びつけていきたい。</p>	<p>商品化のために具体的な形の成型を繰り返し、同時に情報の発信に努め、地域や人を絡めた動きに膨らませる。サンプル品を作り、大洲の飲食店などに使っていただき情報の収集と改善を行っていく。体験が出来るように機材、道具をそろえる。</p>
16	「長浜大橋」重要文化財指定記念セミナー	大洲市観光協会長浜支部	<p>平成26年12月10日に、大洲市長浜のシンボル「長浜大橋」が国の重要文化財に指定されたことを契機として、地域をあげての祝賀イベントを実施し、長浜大橋周辺を核とした長浜地域の活性化につなげる。</p>	1,204,000	1,111,000	<p>平成26年12月10日、「長浜大橋」が国の重要文化財に指定され、これを契機に記念セミナーを実施したことで、地域住民に身近にある地域資源のすばらしさを再認識してもらうことができた。また、ほとんど活用実績のなかった末永家住宅においてイベントを実施したことで、新たな文化財の活用方法を見出すことができ、今後に繋げることができる。</p> <p>なお、来年度実施するいやしの南予博において、末永家住宅を活用したイベントを実施することになっており、それ以降についても積極的に活用していきたい。</p>	<p>地域資源を活用したイベントを今後も住民が主体となって実施していきたい。特に長浜地域には、がんばって活動している団体がたくさんあるので、観光協会長浜支部単体ではなく、今後も積極的に連携しながら町が一体となって地域振興していきたい。</p>
17	地域再生によるUターン促進プロジェクト	地域再生グループ「光」	<p>過疎化が進み地域活動が衰退する中、耕作放棄地を解消し生産力のある農地を再生するとともに、環境に優しい循環型農業や付加価値のある農産物の生産に取り組むことにより、Uターン希望者の受け皿としての機能を持つ組織を確立する。</p> <p>同時に周辺里道の管理や花木の植栽等を行い環境保全に努めながら、体験型農園も視野に入れた整備も行なっていく。</p>	2,000,000	2,000,000	<p>今年度の取り組みと実績により、来年度に2名がUターンする見込みとなった。</p> <p>また、耕作放棄地解消作業により発生したクヌギの未利用材は、地元のボランティアグループに無償で提供し、炭焼きの原料として利用してもらうことで、相互の協力関係を構築することができた。</p> <p>地元住民からは、環境整備の取り組みに対し評価を得るとともに、今後の取り組みにも期待を寄せられている。</p>	<p>来年度は、Uターン者2名を加え、組織の充実を図るとともに、作業の役割分担を決めることにより効率化を図る。また、地元住民の要望等を聞きながらボランティア活動を行ない、住民に我々の取り組みを知ってもらい、理解してもらうことで協力者を増やし、一層の事業拡大を図る。</p> <p>引き続き、関係機関の指導・助言を受けながら事業を継続し、市が推進するメンマの生産のための竹林整備などにも力を入れ、原野化した地域の環境整備に寄与したい。</p>
合 計				24,239,000	23,120,000		